令和6年玄海町議会定例会4月第2回会議会議録

招 集 年 月 日	令和6年1月5日（金曜日）					
招 集 場 所	玄 海 町 議 会 議 場					
開 閉 会 日 時 及 び 宣 告	再開・開議	令和6年4月26日午前10時00分	議 長	上 田 利 治 君		
	散 会	令和6年4月26日午前10時55分	議 長	上 田 利 治 君		
応（不応）招議 員及び出席並び に欠席議員 ○ 出 席 × 欠 席 × 不応招 出 席 10名 欠 席 0名	議席 番号	氏 名	出 席 等 的 別	議席 番号	氏 名	出 席 等 的 別
	1	谷 丸 直 司 君	○	2	松 本 栄 一 君	○
	3	前 川 和 民 君	○	4	小 山 善 照 君	○
	5	山 口 寛 敏 君	○	6	宮 崎 吉 輝 君	○
	7	井 上 正 旦 君	○	8	池 田 道 夫 君	○
	9	岩 下 孝 嗣 君	○	10	上 田 利 治 君	○
会議録署名議員	1 番	谷 丸 直 司 君		9 番	岩 下 孝 嗣 君	
地方自治法第 121条第1項に より説明のため 出席した者の職 氏名	町 長	脇 山 伸 太 郎 君		副 町 長	西 立 也 君	
	教 育 長	岩 崎 一 男 君		総 務 課 長	渡 辺 晴 彦 君	
	防災安全課長	日 高 大 助 君		企 画 商 工 課 長	熊 本 秀 樹 君	
	住民課長兼会計管理者	中 山 昌 直 君		福 祉 ・ 介 護 課 長	中 山 ふ み 君	
	こども・ほけん課長	黒 田 佐 織 君		農 林 水 産 課 長	鶴 田 豊 明 君	
	まちづくり課長	鈴 木 博 之 君		生 活 環 境 課 長	山 口 三 成 君	
職務のために議 場に出席した者 の氏名	議 会 事 務 局 長	中 村 大 造		議 会 事 務 局 書 記	渡 辺 健 太	

令和6年玄海町議会定例会4月第2回会議議事日程（第1号）

令和6年4月26日 午前10時再開（開議）

日程1 会議録署名議員の指名について

日程2 会議期間の決定について

日程3 請願第1号 特定放射性廃棄物の最終処分にかかる文献調査応募について

請願第2号 特定放射性廃棄物の最終処分にかかる文献調査への応募について

請願第3号 高レベル放射性廃棄物の最終処分にかかる文献調査への応募について

午前10時 再開（開議）

○議長（上田利治君）

おはようございます。ただいまの出席議員は10名であります。定足数に達しておりますので、これより令和6年玄海町議会定例会4月第2回会議を再開いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程につきましては、あらかじめお手元に配付しております議事日程表によって御了承方お願いいたします。

日程1 会議録署名議員の指名について

○議長（上田利治君）

日程1. 会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第108条の規定により、1番谷丸直司君、9番岩下孝嗣君を指名いたします。

日程2 会議期間の決定について

○議長（上田利治君）

日程2. 会議期間の決定についてを議題といたします。

お諮りいたします。本定例会4月第2回会議の会議期間は、本日4月26日の1日間としたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（上田利治君）

御異議なしと認めます。よって、本定例会 4 月第 2 回会議の会議期間は本日 4 月 26 日の 1 日間とすることに決定いたしました。

日程 3 請願第 1 号 特定放射性廃棄物の最終処分にかかる文献調査応募について

請願第 2 号 特定放射性廃棄物の最終処分にかかる文献調査への応募について

請願第 3 号 高レベル放射性廃棄物の最終処分にかかる文献調査への応募について

○議長（上田利治君）

日程 3. 請願第 1 号 特定放射性廃棄物の最終処分にかかる文献調査応募についてから請願第 3 号 高レベル放射性廃棄物の最終処分にかかる文献調査への応募についてまでの以上 3 件を一括議題といたします。

本件につきましては、4 月 15 日の本会議において原子力対策特別委員会に審査を付託しておりましたので、委員長に審査結果の報告を求めます。原子力対策特別委員長、岩下孝嗣君。

○原子力対策特別委員長（岩下孝嗣君）

それでは、付託案件の審査結果の報告をいたします。

請願第 1 号 特定放射性廃棄物の最終処分にかかる文献調査応募について、請願第 2 号 特定放射性廃棄物の最終処分にかかる文献調査への応募について、請願第 3 号 高レベル放射性廃棄物の最終処分にかかる文献調査への応募についての以上 3 件の請願書につきましては、去る 4 月 15 日の本会議におきまして原子力対策特別委員会に付託を受けておりましたので、4 月 17 日及び 4 月 25 日に委員会を開催し、慎重に審議を行いました。

審議内容といたしまして、4 月 17 日に開催しました委員会におきましては、経済産業省資源エネルギー庁及び原子力発電環境整備機構の方を参考人として迎え、エネルギー政策の現状と今後の方向性や、高レベル放射性廃棄物の最終処分、文献調査と地域対話についての説明を受け、活発な意見や質問を通して有意義な議論が行われました。

議論の中では、文献調査への応募は原子力発電所立地自治体としての責務であるかという

質問に対して、国はこの問題は特定の地域の問題ではなく、日本全体で取り組むべき重要な課題であり、将来世代に負担を先送りしないように、解決に向けた対策を確実に進めることが必要であると述べられました。

また、文献調査を受け入れることにより風評被害を引き起こすおそれがあるのではという質問に対しましては、国は仮に風評被害が起きるとするならば、文献調査というのを正しく理解していただけていないところが一番気になる場所であり、例えば文献調査をやったら最終処分場に直結という誤解や、あくまでも文献調査であって、先に進まないこともあり得るということを今後も丁寧に情報発信していきたいということでありました。

前にも述べましたとおり、この高レベル放射性廃棄物の最終処分場の問題は、今後電気需要が一層増大する中で、電気を享受している国民全体が、資源のない日本で今の経済を維持して存続するため、原子力発電はエネルギー供給の有効手段であり、再生エネルギーだけでは電力が不足し、コストも上昇し、また過度に化石燃料に頼ることになれば、CO₂が過大に発生して地球環境に悪影響を及ぼすことが明らかであります。このような課題があるということをしっかり国民全体に問題意識を持ってもらうことが最も重要であると認識されたところであります。

また、先日、立地自治体である知事が、これまで原子力発電所に対しての協力は十分果たしており、これ以上の負担は受け入れないという発言をされましたが、そのような問題ではなくて、先ほど申し上げましたように、日本全体で取り組むべき重要な課題であり、原子力発電所を続ける限り、使用済み燃料は必ず発生するということでもあります。議論さえもしないということは、民主主義の封殺であります。

次に、4月25日に開催しました委員会におきましては、請願第1号 特定放射性廃棄物の最終処分にかかる文献調査応募について、請願第2号 特定放射性廃棄物の最終処分にかかる文献調査への応募について、請願第3号 高レベル放射性廃棄物の最終処分にかかる文献調査への応募についてまでの以上3件につきましては同じ内容の趣旨でございますので、私から請願文書表を読み上げてから、紹介議員と各委員と質疑応答を交え、議論を行ったところでございます。

議論の中では、反対意見や賛成意見が出され、反対意見といたしましては、住民の方はほとんど文献調査への応募については御存じない。なぜこの時期に、何のための文献調査応募についての請願が出されたのかとの質問に対して、紹介議員からは、この問題に対して請願

された団体の方が重要な問題であると認識されており、原子力発電立地自治体としてよい部分だけではなくて、悪い部分も見て議論しないと安全で安心な町はつくれないのではないかと述べられました。

なお、これまでも延べ3,500人以上の町民の方が原子力関連施設の視察研修に行かれており、住民の方は原子力発電に対しての知識は十分に得られているのではないのでしょうか。また、文献調査を受け入れたら、最終処分場まで覚悟しておくべきではないのかとの質問に対しては、先日のエネ庁の説明で、文献調査をやったら最終処分場に直結するのではないかという誤解や、あくまでも文献調査であって、先に進まないこともあり得るということを今後とも丁寧に情報発信していきたいとの趣旨の説明がありました。

繰り返しになりますが、この問題は日本全体で、国民全体で平和な生活を営む上で必要な電気、電力を議論すべきであり、原子力発電を稼働する限り使用済み燃料は発生するので、このことから、原子力発電サイクルと、それに伴う特定放射性廃棄物の最終処分の問題は、日本全体で議論していくという課題として、今後国に求めるべき重要な請願であり、本請願は妥当であるとして、賛成多数で採択することにいたしました。

以上で原子力対策特別委員会の審査結果についての報告を終わります。

○議長（上田利治君）

これより質疑に入ります。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（上田利治君）

以上をもって質疑を終結いたします。

これより討論を行います。

反対討論の申出がっておりますので、許可します。3番前川和民君。

○3番（前川和民君）

皆さんおはようございます。前川でございます。

今日は議案番号、請願第1号から議案番号、請願第3号までの3請願について反対の立場で討論を行います。

まず初めに、この請願書が原子力委員会で慎重審議されたとは私はとても思えません。今回の流れは4月15日に議会が再開され、3件が原子力対策特別委員会に審議を付託されましたが、審議されたのは4月17日と昨日の25日のたったの2日間であります。この期間は僅か

10日間です。審議も尽くされておらず、最も重要な玄海町の住民が全国から注目されて、そして玄海町に何百年も何千年も何万年も関わる重要な請願書が玄海町議会に提出され、可決されようとしているということをほとんどの住民や町民がまだ知らず、採決が行われようとしています。私は、この議会は全く民意が反映されていないということ、これが反対の最大の理由であります。

先ほど言いましたように、この問題は玄海町、佐賀県にとって将来を決める非常に大きな問題です。私は、請願書を提出されている団体の参考人招致や、その内容をよく協議し、説明していただいたことにより、その内容が町民に分かっていただくように、テレビ放送や町の広報紙等で町民に広く知っていただいた後で、こういう採決に臨むべきだと私は考えます。

今、反対の意見が出ていないというふうなことが言われますけども、今反対の意見が出ないのは、町民の方がまだこの請願の内容、またここで採決されよということをほとんどの人が知らないからではないでしょうか。声が上がらないから、決して賛成であるということにはならないというふうに私は思っております。

そもそも玄海町の面積は36平方キロメートルと、非常に面積としては小さいと私は考えます。この地層処分に係る面積としては、6から10平方キロメートルが必要だというふうに言われております。約3キロメートル四方の面積が必要で、玄海町の上にはそういう面積はないというふうに考えます。そういう施設ができると、玄海町の住民は、その上で生活することになると私は考えておりますので、そういう施設は造るべきではないというふうに考えて反対をします。

そして、玄海町では科学的特性マップで、シルバーの設置不適格地となっております。地下に石炭などの資源が埋設されて、資源がありますので、それを採掘して将来、そこにいろいろな危険が及ぶんじゃないかということで、国のほうはそういう資源がないところは適地、またそういうところはシルバーの不適地というふうなところで、玄海町はそのシルバーの不適地ということで、地層処分には適しない場所だというふうなことを言っております。

そういうことを含めながら、まず請願第1号の特定放射性廃棄物の最終処分にかかる文献調査応募についての反対討論を行います。

これは玄海町旅館組合からの請願で、紹介議員は松本栄一議員であります。

この請願趣旨で、原子力立地自治体の責務に基づき、特定放射性廃棄物の最終処分に係る

文献調査に応募することにより、国が取り組んでいる重要な問題の解決に協力するとともに、地域の安全を再確認し、今後の地域防災のために要望するとありますが、まず1つ目、文献調査に応募することは、高レベル放射性廃棄物の発生原因を有する自治体の責務、こういうふうの中に書いてあります。文献調査に応募することが原子力立地地の責務でしょうか。そうではないと私は思います。

次に、地域の安全を再確認するために応募するという地域の防災とありますけども、原子力の防災は文献調査で確認するものではなくて、もっと国の原子力規制庁や、そういうものが私は確認するべきだと思い、この防災について文献調査に応募するという趣旨は違うのではないかというふうに考えております。

次に、請願第2号の特定放射性廃棄物の最終処分にかかる文献調査への応募についてであります。

請願者は玄海飲食業組合であり、紹介者は池田道夫議員と松本栄一議員であります。

請願趣旨として、今年の元旦に起こった能登半島地震により、活断層での地震や津波被害は甚大であり、特定放射性廃棄物の最終処分に係る文献調査を受け入れることにより、過去のデータを基に今後の地域防災計画や、計画を立てる上で重要だと考える。そのため文献調査への応募を要望するとありますけども、趣旨は元旦の断層のずれによる能登半島地震を受けた地域防災計画が主眼でありますけども、先ほど申しましたとおり、防災計画は内閣府や原子力規制庁の所管ですし、活断層を確認し、防災計画や対策を取ることですけども、今回求められている文献調査では、活断層の新たな確認は私はできないと考えております。

先日の委員会でも確認したとおり、文献調査では既に確認済みの活断層しか分かりません。原子力立地するときに既に分かっている活断層はどこにあるかというのは、もう既に分かっていることです。今言われているのは、分からない未知の活断層がどこにあるかというのが主眼だと思いますけども、文献調査書類だけ見ても、新たな活断層はほとんどというより不可能に近く、見つからないというふうに私は考えます。

今なぜ新たな活断層が分からないかというふうな話を、もっとちょっと詳しく説明しますと、新たな活断層を調べるためには、まず最初に文献調査の次の概要調査にもあるような物理探査を行って、大まかな断層を探す必要があります。大まかな断層を探して、その断層がどういうずれが大きいか、どの位置にあるかというのをボーリング調査等で確認し、その位

置を特定したところで表土を剥いで、そこの断層をトレンチ調査というふうな方法で確認し、この断層が活断層か、動かない安定した断層かというのを調べ、それでやっと新たな活断層というのが確認されるわけで、文献調査で新たな活断層が分かるというものではありません。よって、この請願書も内容が文献調査とはほとんど関係ありませんので、私は否決をさせていただきたいというふうに考えております。

そして、最後の請願3号の高レベル放射性廃棄物の最終処分に係る文献調査への応募についてでありますけども、請願者は玄海町防災対策協議会で、紹介議員は小山善照議員と谷丸直司議員であります。

請願趣旨は、佐賀県玄海原子力発電所の立地場所の安全確認を含む文献調査への応募を要望いたしますとありますけども、趣旨は、原子力発電所の安全確認のための文献調査ということであります。既に申しましたとおり、原子力発電所の安全確認は内閣府や原子力規制庁の所管ですし、能登半島のような活断層の確認は文献調査では分かりません。概要調査のトレンチ調査等をする必要があるものであり、文献調査でこの請願内容を満たすわけではなく、今言ったとおり、この3つの請願書の内容はほとんど今回の文献調査の目的に該当するものはありません。

この文献調査にほとんど該当しない。私に言わせれば、1項目もない請願書を、皆さんはこの大事な本会議で賛成されるのでしょうか。賛成派の人は、玄海町が文献調査に手を挙げることで、高レベル廃棄物地層処分の全国の関心を広めたいという考えでしょうけども、適地でもない玄海町が手を挙げ、波風を立てるよりも、科学的特性マップでグリーンの適地で適しているところに手を挙げてもらうように、我々はもっと努力するべきではないでしょうか。

玄海町は九州電力とお互いに協力し合いながら、現在電力の安定供給をしています。日本でも安価でこの安定した電力で、熊本には台湾よりTSMCという半導体製造会社が進出しています。半導体製造には安価で安定した電力と大量の水が必要だからです。このように、玄海町は原子力発電所を受け入れることにより、国や九州の経済や人々の生活にも十分貢献していると思います。私は、これ以上玄海町で負担を負う必要はないというふうに考えます。高レベル放射性廃棄物を出して電力を供給している自治体だけが責任を負うのではなくて、安定した電力を使用し、恩恵を受けている自治体も同様の責任を負う必要があると私は考えます。

マスコミで、核のごみと言われるものを自分たちで出しているごみは、よそに出さなくて、自分のところに埋めますというふうなことを言って、玄海町が手を挙げたときは、今でも積極的に受け入れる自治体がない中で、玄海町が核のごみはうちで引き受けますと言ったときに、ほかでこれを引き受けるというふうな自治体が出てくるのでしょうか。私は逆に、玄海町がこの核のごみを受け入れるということで手を挙げると、かえってほかの自治体が手を上げることがなくなってくるんじゃないかというように思います。

今言ったように、自分のところを出しているごみは自分のところで引き受けますと言えば、そしたらそれがいいんじゃないか、いいねってみんな思うのではないのでしょうか。この文献調査を受け入れた後も、次の段階に進めるのを簡単に止められるような表現、またそういうことができるように言われますけども、玄海町のように、自分のところでごみを出しているところ、ここが自分たちで引き受けているという、引き受けるということを言うと、断るのが後々非常に難しくなるんじゃないかというふうに考えております。

今回のように受入れ賛成派から町長への質問に、これまで受入れ派からの町長への質問に町長ははっきりと、何度も受け入れる考えはないとこの議会で答弁しておられます。この私に言わせれば、民意を反映していない議会の数で町長に手を挙げさせ、文献調査を受け入れると、あとは概要調査での判断が、断る判断が自分のところで、玄海町でできなくなるというふうに考えます。

この概要調査に行くには、町長と知事の許可が必要ですがけども、一度文献調査を受け入れ、町長が賛成すると、知事はなかなか断りづらくなるのではないのでしょうか。自分のところで自分のごみは片づける、県外には出さないという自治体があるのに、知事が自分ところのごみをよその県の人に、県に持ち出して、そこで保管してくれというのは、なかなか知事は言いづらくなるんじゃないかというふうに思っています。

現在は、受入れ反対の立場にある山口知事ですけども、山口知事もいつまでも知事をされるということではないと思います。知事が替わると、これも分からなくなるというふうに考えます。そして、数日前は新聞に、玄海町は佐賀県で将来町がなくなる可能性が一番高い町というふうな報道をされました。こういうものを受け入れることによって、また人が町から出ていく可能性がさらに高まるんじゃないかというふうに考えます。

今、玄海町はIT関連の企業誘致で町の活性化を図り、また定住促進施策を行っています。そして、今実際にいろいろなIT企業が玄海町に進出し、今それに伴った企業誘致が行

われようとしています。そういう明るい未来を捨てて、今回私に言わせれば、非常に危ない橋を渡るような文献調査を受け入れるようなことになると思います。

今後、町長も重い判断を迫られるようなことになると思いますけども、私は軽々に判断してほしくない。町長には地区説明会等で十分聞き取りを行って、民意を反映した判断をしていただく、それが大切ではないかというふうに思います。住民アンケートや住民投票などを行って、住民の意見を十分反映した上で判断をしていただく必要があると思います。これは、将来重要な問題ですので、私は中学生以上の人で住民投票を行って、それで判断していただくのが一番いいのではないかというふうな考えを持っております。

そして、町長は、文献調査応募に、最後までどうしても手を挙げざるを得ないというふうな判断になったときには、交付金を受け取らないでほしいというふうに私は考えます。国から20億円の交付金が来ますけども、この交付金、玄海町は財政が非常に豊かです。財政指数が去年は1.26という非常に高い数字であります。また、200億円程度の基金も持っております。この文献調査をもしするとしたら、この20億円は周辺に迷惑をかけている市町村に私は配分して、玄海町はお金を受け取らないというふうなことで、文献調査を行うというふうな判断をしていただきたいというふうに思います。

今回の文献調査の応募は、地層処分施設ができる可能性があります。

そして、最後にですけども、ここにおられる人をお願いですけども、将来の玄海町の子供たちを核貯蔵施設の上で暮らさせないようにしてください。また、高レベルの廃棄物の上で子育てさせないようにしてほしいと思います。そして、未来の子供たちに負担を押しつけるのはやめてほしいというふうに思います。そして、玄海町の子供たちに明るい未来を残してください。このことをお願いして、私の反対討論は終わります。

○議長（上田利治君）

賛成討論の申出もあっておりますので、許可します。2番松本栄一君。

○2番（松本栄一君）

賛成の紹介議員として賛成討論を行いたいと思っております。

まず初めに、皆さんに聞きたいです。賛成、反対、これ皆さん言われます。しかし、昨日も申し上げました。これ実際玄海町の自治体にあるわけなんです。そのためにやはり話し合いをしましょう。議論をしましょう。資料をより一層集めましょう。あたかも最終処分場建設ありきの話をされています。この部分が一番危ないんじゃないでしょうか。まずは議論を

し、まず的確な判断のできる場で議論をし、真剣に向き合い、判断していくことこそが必要なんではないでしょうか。反対側の意見だけ見れば、反対側の角度でしか目には見えません。しかし、賛成側の立場から見れば、賛成側の立場からしか物事は見えません。

その中において一番大事なの、文献調査に対してこれを話をどういった議論に持っていくのか、まずここが論点なんじゃないでしょうか。皆さんもし最終処分場ができれば、もしそのまま行くんじゃないか、今までの議論の中で誰が言いました。調べることさえも駄目なんですか。

私は、今の日本はこれは一番危険だと思っております。議論もできん、やはり一つ一つの問題に対して正面から向き合っていない。そのために、やはり文献調査は必要だと言っているんです。正確な情報資料、この中で出たデータを基に判断し考えていく、その中でスライドしていくんじゃないか、スライドしていくんじゃないか、皆さんそうおっしゃられます。メディアもおかしいと私は思っています。あたかも本当に最終処分場ありきの話なんです。それは確かに選定に向けた話です。しかし、誰も造るとは言っていない。議論をしましよと言っています。そもそもそこが論点が間違っていると思っています。

原子力発電所を建設される時、夢のエネルギー、こうやって原子力発電所が建設されました。今は何不自由もないですよ。しかし、片や反面、負の遺産的な表現、幾ら反対しようが賛成しようが、実際この問題ってどうにもできないんですよ、議論していかない限り、ここが問題だと言っているんです。

町民さんも、やはり心配になられていると思います、一連のメディア報道で。しかし、これ将来世代に対して、必ずしもそういった議論があったことさえ事実として伝えていかなければならないんです。そこが大事だと私は思います。

そもそもこの文献調査に対して、第1段階、文献調査、第2段階、概要調査、第3段階、精密調査、これ区切ってありますよね。ということは、問題提起の中で文献調査っていうのはまず第1段階です。この部分を議論する、それで何で最終処分場なんですか。そこを問いたいんです。誰も一言も言っていない、最終処分場を建設しますとは。議論をしましよって、私は最初からメディア報道でも言っています。本心から向き合うためには、やはり議論をする場、結果がなくて材料がなくて議論はできません。

私はこのことに対して賛成側の意見とし、やはり自分たちのところで出たごみ、これ家庭に換算してみてください。家の中にそのまま捨てますか。ごみ箱に捨てます。そのごみを

み出し日の日に業者に渡し、出しますよね。これも一緒だと思うんですよね。自分たちがして初めて近隣にお願いができる、ほかの自治体に要請ができる、自分たちから発信していくべきことなんじゃないかなと私は認識しております。

約50年間、原子力発電所にはやはり私たちも協力はしてきました。しかし、原子力サイクルという話になれば、完成してはいません。まだ道半ばだと私は思っています。どうかこの文献調査については、後世に残る資料だと私は思っているんです。そのときに判断できるためには、やはり残すべきだと思っています。

私も1975年の1号機運転開始の年に生まれました。やはりそれも実際廃炉なんです。後世に残す、これ資料を残すのか、方向性を示すための資料を残すのか、それとも廃棄物だけ残すのか、これ全然見方違ってきますよね。私は安全のためにも、やはり後世につないで正しい議論をし、安全・安心が担保できるような材料をやはり文献調査に求めたいと思って紹介いたしました。

以上です。

○議長（上田利治君）

続いて、賛成討論の申出がっておりますので、許可します。4番小山善照君。

○4番（小山善照君）

おはようございます。小山でございます。

今、松本栄一議員がるる申し述べられました。私の心境としてもまさに同じであります。

幾つか補足的に賛成の意見を述べたいと思うんですが、まず第1にあるのが、先ほどから出ております負担という言葉ですよね。この負担は、確かにおっしゃるとおり負担なんです。であるんなら、この負担をどこにしてもらうのか、誰に押しつけるのかというような話にならんとも限らないんです。前川議員がおっしゃるように、未来に向けた子供たちを安全な場所であるというのも十分理解できます。であるなら、これをどこにお願いするんですかということになりますよね。うちの子供たちには安全で、逆にこの議論がないまま、どこかにという話になったら、そこの子供たちにそれを押しつけるというような話になりますよね。ですから、松本議員がおっしゃるように、これは大きな議論にしていくべきだと私も思うところであります。

これが、昨日ある自治体の議員さんが見えられて、お話をしました。普段なら、こういうことは全くありません。よその自治体の議員さんがうちに来て話を聞くというのは、私は初

めての経験でした。非常にこの話に興味を持っておられました。この方は、反対なのか、賛成なのか、はっきりは申されませんでした。要はこの事実、これが私たちの欲しい第一歩の小さな成功例ではないかと思うんです。よその方がうちの問題に関心を持って、話を聞きに見えられたという、これの広がりをお私たちは期待しているところであります。この話は、自分の感覚で言わせていただけるんなら、座して待つのか、それとも能動的に動いてどこかをお願いをして、そういう議論を進めていくことが大切なのか、それを聞きたいと思っております。

文献調査が最終処分場の選定に直結するわけではないですよというのは、私もしっかり聞かせていただいております。そういう中で、安全・安心ということをお担保してほしい、どういう形でも、どういうツールを使ってでも、それは確立していってくれんといかんよという意見が出れば、それはお私たちは当然受け止めて、こういう形にして問うていくのは当然の務めだと思っております。これは安心・安全という旗を立てられれば、どうしても避けて通れない話だと私も思っております。

先ほど前川議員の話、松本議員の話もしっかり聞かせていただきましたが、私としては、今申しましたように、これはやはり大きな議論にしていくべきだということに思っております。ですから、先ほど申しましたように、よその自治体からわざわざお話を聞かせてくれということで訪ねて見られた、これは本当に小さなことかもしれませんが、これが大きな第一歩になる小さな成功例の一つになるんじゃないかと私は思っております。ですから、この議論の盛り上がりをお大きく大きく期待して、そういう話になる、これをもう本当に期待しております。

廃棄物の問題は、これは賛成派、推進派、反対派、この方たちをお越えたところの問題だと思っております。これを処分しない限り、国の言うエネルギーサイクル等々も当然成り立っていきません。これは松本栄一議員もおっしゃるように、私もそう思います。これは道半ばだというのは本当にそうだと思います。ですから、これを確立しない限りには、いろんな話は今以上に進むことはないのかもしれないと思います。実際、動かなければ増えることはないと思います。しかし、止めようが動かそうが、あるものは今ここにあるんです。これをどうしていくのかというのは、国がしっかり柱と旗と方針を立てて、どうしましょうか、どういうことになっていったらいいんでしょうかというのを広く問うてほしい、その議論の接ぎ穂に我々になるのであるんなら、我が身を守るためにもこれは必要なんじゃないかと思っております。

いろんな趣旨、文言等々はあると思います。あると思いますが、それを越えたところの問題だと私は思っております。これは、文献調査をやるべきだ、当然それも含んだ話にはなるんですけども、この議論をやらなければ先には行きませんよ、どうするんですか、ずっともたたさせられるんですが、それは嫌ですよ、だからこれをしっかり議論していく、これはもう国、県、小さな自治体、これは関係ないと思いますよ。やるべきことはやるんだ、こういう大きな決断をするのが大事なんだ、これを皆さんに問うていきたいというだけの話であります。

わざわざ問題を難しく難しくしていただくマスコミの方々、いかにも経済的な面を求めているかのような書き方、これは私たちとしても非常に心外です。それで、請願を出されている方々にも非常にばかにした話ですよ。いえいえ、やじが聞こえてきましたが、これは見ていただければ、要は経済的なものでこれをしたのか、それとも、そういうところを超えたところでそれをやっていこうとしているのか、それを見て信じてもらうしかありませんが、はなから信じる気がない人たちには信じてくれと言うても、これは無理です。無理なんです。だから、議論をしましょうと。だから、大きなテーブルに着いてくださいと。賛成の方、反対の方、メリット、デメリット、これを同じテーブルにのせて、さあ皆さん寄ってきてくださいと、喧々譁々やろうじゃないですかという話を定義することが、そんなに悪いことなんでしょうか。私はそれはちょっと疑問ですよ。やじの方もいろいろおっしゃいますが、私の意見を述べております。

るる申し述べましたけども、私といたしましては、この議論が、本当に大きな大きな議論になっていくことを期待いたしまして、賛成の討論にさせていただきます。

○議長（上田利治君）

以上をもって討論を終結いたします。

これより採決いたします。

請願第1号 特定放射性廃棄物の最終処分にかかる文献調査応募についてから請願第3号 高レベル放射性廃棄物の最終処分にかかる文献調査への応募についてまでの以上3件については、請願書のとおり採択するに賛成諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（上田利治君）

賛成多数と認めます。よって、本件は請願書のとおり採択することに決定いたしました。

以上をもって本定例会 4 月第 2 回会議に付議された案件の審議は全部終了いたしました。
よって、令和 6 年玄海町議会定例会 4 月第 2 回会議はこれにて散会いたします。お疲れさま
でした。

午前10時55分 散会

地方自治法第123条第 2 項の規定によりここに署名する。

玄海町議会議長

玄海町議会議員

玄海町議会議員